

慈明院寺報十二月号

ドラゴン・キング・ラビッツ



はや師走、ウサギ年の今年も残り少なくなつた。来年は辰年龍である。何か龍にまつわる話はないかな？探していたら身近な所に

「龍王ウサギ」という民話を見つけた。福岡市西区・姪浜に伝わるお話である。

その昔、そう宋（中国）の国に渡つて修行した南浦紹明なんぽしょうみょうという僧がおりました。

彼は八年間、虚堂禪師きどうぜんじについて学び、ようやく帰国する事を許されたのでした。帰国する船に乗るには、山を二つ越えて港に行かねばなりません。翌朝の船に乗船する為、夜遅くに出発しました。

二つ目の山にさしかかると、月に照らされた山道に一匹の白いウサギが出てきました。ウサギはひどくおびえています。すると、ウサギを追つてけもの獣の声が迫ってきました。よく見れば、腹を空かせた数匹の狼が近づいてきました。

南浦紹明は急いでウサギを懷ふところに入れました。そしておもむろにお経を唱えました。その念力ねんりきに打たれたのか、狼は山深くに帰って行きました。そしてウサギを懷から出して、逃がそうとしましたがウサギは逃げません。一緒に日本に連れて帰る事にしました。

翌朝、無事に船に乗る事ができました。しかし、玄界灘で船が暴風雨に遭いあいまにも難破なんぱしそうになりました。するとウサギが荒れる海に身を投じました。たちまち荒波がピタリとおさまって、船は無事姪浜の港に帰る事ができました。ほつとして空を見上げるとウサギがきらきらと金色に光り輝いて、空高く舞い上がったかと思うと、やがて龍王の姿となって天に消えていったのでした。

その後、南浦紹明は姪浜うしつとくべに興徳寺というお寺を開き、臨済宗りんざいしゅうの名僧として大応国師だいおうこくしと呼ばれるほどの活躍をしたそう。現在、姪浜駅南口に存在するモニュメントは、この話をモチーフにした「ドラゴン・キング・ラビッツ」という作品なのだそう。ウサギが龍に変わって今年も暮れていく。住職 合掌

新年のご案内 初大黒天 護摩祈願法会

はつだいこくてん ごまきがん

正月元旦、恒例の「令和六年 初大黒天 護摩祈願法会」を左記日時にて奉行致します。皆様のご参拝をお待ちしております。（詳しくは別紙参照）

一番座

一月一日 午前0時より（大晦日の夜中二十四時より）

二番座

一月一日 午後二時より（正月元旦のお昼十四時より）

*古いお札・お守り等、当日お持ち下さい。後日供養致します。

*紅白もち、縁起物のお菓子をお接待致します。

（来年）令和六年の年忌について

一周忌	令和五年	逝去
三回忌	令和四年	〃
七回忌	平成三十年	〃
十三回忌	同二十四年	〃
十七回忌	同二十年	〃
二十三回忌	同十四年	〃
二十五回忌	同十二年	〃
二十七回忌	同十年	〃
三十三回忌	同四年	〃
三十七回忌	昭和六十三年	〃
五十回忌	同五十年	〃
七十回忌	同三十年	〃
百回忌	大正十四年	〃

来年 令和六年に年忌を迎えられる仏様の亡くなられた年の一覧です。参考にして頂き、法事の希望などございましたら、電話でご連絡下さいませ。

年忌の法事はご命日より前に行う場合が多いですが、必ず前でなければならぬという訳でもありません。命日を過ぎて、ご法事をなさっても大丈夫ですし、都合の良い日にちでご供養して頂ければと思います。
*（昭和六十四年）は（平成元年）（平成三十一年）は（令和元年）と同年。

じみょういん

慈明院（〒八一一一三）福岡市早良区大字西二三四一（二〇）

TEL（〇九二）八〇四四五七〇 FAX（〇九二）八〇四四六〇五

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇-（五二八一）-七四九四